

ノヤマ通信

vol.6 (2022.霜月)



森のようちえんヒュッテ

【10月に行った活動：3日宇和運動公園、6日どんぐり王国、13日山の基地、17日宇和運動公園（雨天のため上松葉から変更）、20日城川町田穂、27日米博の裏山、31日有志でハロウィン@山の基地】

●活動を見つめるコラム

「地域の素敵な大人たちとふれあいたい！」

私たちが森のようちえんヒュッテを運営するうえで「大切にしたいこと」として掲げているものが3つあります。一つ目は「自然の中でとことん遊ぶ」、二つ目は「子どもをじっくり観察し、見守る」、そして三つ目が「地域の素敵な大人たちとふれあう」です。

ヒュッテは、地域全体を子どもの育ちの場として活動を組み立てていて、地域で暮らすいろんな人たちとの交流を通じて、この土地での暮らしの知恵や様々な生き方にふれてほしいと考えています。

10/20、城川の田穂地区を訪れたときには、ゆず畑で作業をしているおばあちゃんに出会いました。おばあちゃんによると、今年はゆずの実のなりが悪いそうです。上り坂を歩く子どもたちを見て「えらいねえ」と声をかけてもらいました。

思えば、コロナ禍に入ってから活動の中でこうした場面がずいぶん少なくなってしまいました。様々な活動が自粛・休止される中、いろんなことへの配慮から、山の基地にこもって活動をする時期もありました。でも、こうやって集落を歩き、子どもたちを温かく見守ってもらえるというのは田舎で子育てをしていてよかったな、と思う瞬間の一つではないでしょうか。親以外の地域の人たちにも温かく見守られながら育つ経験は、子どもたちの自己肯定感を育むことにもつながると思います。

そういうわけで、またいろんな集落にお邪魔して、いろんな人たちと出会う機会をつくりたいな、と改めて思っている今日この頃です。

(ゆ)

集落を駆ける子どもたち→



▲10/20 森のようちえん@城川町田穂

山の基地

【10月に行った活動：9日開放日、30日イベントDAY（たき火で芋炊き）】

●火をたくのに使っていたドラム缶がボロボロになったので、石を組んでたき火をする場所（ファイヤーサークル）を作ってみました。火をたくと土が焼けていい感じに固まったので、モルなどで固めずにそのまま使うことにしました。



石と土で作りました

●10/30のイベントDAYは、みんなでおいしい芋炊きを作りました。新たに作ったファイヤーサークルも活躍しました。



●ノヤマの活動を応援してくださっている方から、軽トラを譲っていただきました！草刈り機を積んだり、木材を運んだりする作業がずいぶん楽になりました。ありがとうございます〜🙏



さっそく大活躍！

✿✿ その他の活動

●10/2四万十町に出張

友人からイベントの企画を頼まれて、打ち合わせと現地の確認に行ってきました。今後、西予市周辺の市町でも子どもと過ごせる遊び場を少しずつ発掘していきたいです。



●10/9-10山の基地でキャンプ

山の基地の開放日の後、そのまま小屋に泊まって一晩過ごしました。そのうち夜の体験プログラムとかもイベントとしてやれるといいな、と思っています。



●10/22移住体験ツアー対応

今年度、愛媛県は南予地方への移住促進に取り組んでいます。地方移住を考えているご家族が森のようちえんに興味があるということで、山の基地をご案内しました。



●ツル類の保全活動

西予市宇和町には秋から冬になると、ツル類が大陸から渡ってきます。現在、西予市では、ツルやコウノトリと共生するまちづくりの計画を検討していて、私たちも計画の検討や保全活動に関わっています。今年度は、ツル類が飛来するエリアに食べ物十分あるかを調べる調査や、ツルやコウノトリの見守りボランティアなどの活動に参加します。



ツルの定着を促すために設置したデコイ（実物に似せた模型）→

🌿 いきもの情報

活動の中で出会った生きものたちを紹介します。



森のエビフライ

リスなどが松ぼっくりを食べた跡（芯の部分）。松の木の下を探すと、意外とよく見つかります。写真は米博の裏山にて。

📖 おすすめの本

少し前に山の基地で、ハロウィンを楽しんでいた時のこと。隣にいた子につよい言葉を発していたS君の様子を見て、お母さんが「気をつけようね。言葉には力があるんよ。」と声をかけられていました。私も、言葉はすごく大切だなあと考えているので、いろんなことを考えさせられる出来事でした。

最近、「ルポ 誰が国語力を殺すのか」という本を読みました（タイトルが強い^^;）。

「国語力」とは、見知らぬ世界を自分のこととして想像し、他者の心のひだまでを感じ取り、自分の考えを整理し、相手に伝わるように適切な言葉で発信していく力のこと。私たちが広い社会の中で立ち立っていくために、必要な力とされています。この本では、そうした国語力の弱まりが、格差、教育、ネットという切り口で語られていました。

今、森のようちえんには0～5歳の子どもたちが参加してくれていますが、自分の気持ちをうまく言葉で伝えられるときもあれば、できないときもあります。言葉だけじゃなく、相手の表情や行動から、どうしたいのかを想像する必要がある場面にも遭遇します。私自身も過不足のないかわりを意識しながら子どもたちを見守っていますが、こんな声のかけ方でよかったのかな、もっと違う接し方があったんじゃないかなと振り返ることが多く、練習中です。

子どもたちの言葉や言葉になる前の気持ちを観察しながら、一緒に過ごす時間を大切にしていきたいと考えています。（ち）



<発行> 一般社団法人

ノヤマカンパニー



愛媛県西予市宇和町稲生237-1

noyama.company@gmail.com

